

記者発表（発表・資料配布）				
月/日（曜日）	事務所等名	電話	発表者（担当者）	その他の配布先
令和8年 6月3日 （水）	北播磨県民局 県民躍動室	0795-27-7180	室長 三嶋 良宜 （地域振興課班長 小林 佳子）	県政記者クラブ

## 第19回播州織PR・展示販売会の開催

播州織は、自然な風合いと豊かな色彩、肌触りの良さが特徴の先染織物として知られ、兵庫県を代表する地場産業の一つです。

昨年実施された大阪・関西万博においても、西脇高校生活情報科の生徒によるファッションショーにより、国内外の多くの方々に魅力を発信した播州織を、「見て」「触れて」「体感して」いただくため、今年も神戸市（県庁）と加東市（社総合庁舎）で「播州織PR・展示販売会」を開催します。

- 1 日時・場所 令和8年6月 9日（火）11：00～15：00 県庁1号館1階ロビー  
令和8年6月10日（水）11：00～14：00 社総合庁舎本館1階入札室
- 2 主催 西脇市、北播磨県民局
- 3 協賛（公財）北播磨地場産業開発機構
- 4 協力 多可町
- 5 内容 播州織のPR・展示販売

〈販売商品例〉 メンズオーダーシャツ、既製シャツ（長袖・半袖）、ストール、バッグ等

【令和7年度 PR展示販売会の様子】



【県庁】



【社総合庁舎】

### 【播州織の特徴】

糸を先に染め、染め上った糸で柄を織る「先染織物」という手法が特徴。国内先染織物の約60%のシェアを占めており、その独特の製法により、自然な風合い、豊かな色彩、素晴らしい肌触りの生地仕上がり、シャツやハンカチなど様々な身近な製品に加工されている。

### 【播州織の歴史・現状】

200年以上前の江戸時代中期に京都西陣の織物技術をもとに、農家の副業として西脇市・多可町を中心に北播磨地域で生産され、当時は「播州縞」と称されていたが、明治39（1906）年の「第1回多可・加東・加西連合織物品評会」で服部一三知事が訓諭で「播州織」と称し、以降「播州織」と称されるようになった。

近年は、低調な国内需要と安価な海外製品の流入により、生産量は減少傾向にあるが、染から織、仕上げまで産地で一貫した工程を行える強みを生かし、国内外向けの高品質製品として販路拡大に努力している。

加古川水系の豊富な水資源に支えられてきた産地では、以前から水質保全に尽力し、繊維廃棄物や余剰糸を再資源化・再利用する等、自然との共生をテーマにSDGsに積極的に取り組んでいる。



ひょうごフィールドパビリオン  
Our Field, Our SDGs  
私たちのフィールド、私たちのSDGs